

第32回
マルセイユ国際映画祭
グランプリ・俳優賞・観客賞受賞

荒木知佳	能島瑞穂	安楽涼
新部聖子	日高啓介	大須みづほ
金子岳憲	名児耶ゆり	DEG
伊東沙保	北村美岬	徳倉マドカ
	黒川由美子	清水啓吾
	深澤しほ	吉川愛歩

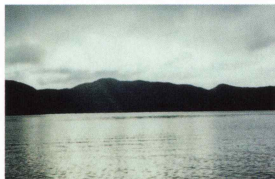
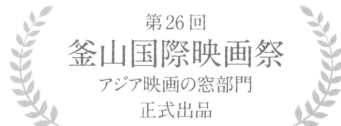
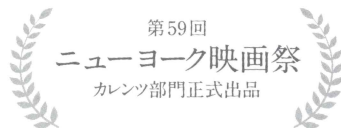
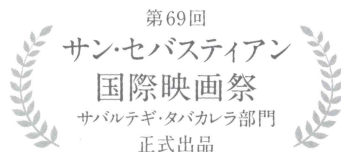
原作短歌：東直子

脚本・監督：杉田協士

春日景子のうた



第32回
マルセイユ国際映画祭
グランプリ・俳優賞・観客賞受賞



『ひかりの歌』杉田協士監督による長編映画最新作

世界各地の国際映画祭で注目を浴びつづける珠玉作、待望の日本公開

前作『ひかりの歌』が口コミなどの評判により全国各地での公開へとつながった杉田協士監督待望の長編第3作『春原さんのうた』。作家・歌人の東直子による第一歌集『春原さんのリコーダー』（ちくま文庫）の表題歌「転居先不明の判を見つめつつ春原さんの吹くりコーダー」をもとに、ある喪失感を抱えた女性が、日々のささやかな暮らしを続ける姿をただ見つめていく。撮影を飯岡幸子（『ひかりの歌』『偶然と想像』）、照明を秋山恵二郎（『花束みたいな恋をした』『きみの鳥はうたえる』）、音響を黄永昌（『不気味なものの肌に触れる』『VIDEOPHOBIA』）が務めた。今作は第32回マルセイユ国際映画祭において、日本映画初となるグランプリとともに観客賞、俳優賞の3冠という快挙を成し遂げた。31音の短歌から生まれた映画が、マルセイユ（フランス）以降もサン・セバスティアン（スペイン）、ニューヨーク（アメリカ）、釜山（韓国）と世界各国での旅を続け、2022年1月、ついに日本での劇場公開を迎える。

▷ STORY

美術館での仕事を辞めてカフェでのアルバイトを始めた沙知（24）は、常連客から勧められたアパートの部屋に引越しをする。そこでの新しい生活を始めた沙知だったが、心にはもう会うことの叶わないパートナーの姿が残っている。

あなたの映画は本当にアメイジングです。

これからも映画を作って、作って、作りつけてください。

—— ラヴ・ディアス監督（第32回マルセイユ国際映画祭閉会後に）

9/9(金)~9/15(木)
併映作品

杉田協士監督
初長編作

『ひとつの歌』

キネカ大森
03-3762-6000
https://tccg.jp/cineka_omori/